

## 第 5 項 施工管理記録様式

## 目 次

様 式	名 称
	(出来形管理関係)
1	出来形管理図表 品質管理図表 (表紙)
2-1	出来形管理図表
2-2	度 数 表
3-1	測定結果一覧表
3-2	鋼管溶接測定結果一覧表
3-3	鋼管溶接、塗覆装点検表
3-4	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表
3-5	埋設とう性管たわみ量管理表
3-6	鉄筋組立検査結果一覧表
4	杭 打 ち 成 績 表
	(コンクリート関係)
5	セメントの密度試験 (JIS R 5201)
6-1	セメントの粉末度試験 (比表面積試験) (JIS R 5201)
6-2	セメントの粉末度試験 (網ふるい試験) (JIS R 5201)
7	セメントの凝結試験 (JIS R 5201)
8	セメントの安定性試験 (JIS R 5201)
9	セメントの強さ試験 (JIS R 5201)
10	細骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1109)
11	粗骨材の密度および吸水率試験 (JIS A 1110)
12	細骨材の表面水率試験 (JIS A 1111)
13-1	骨材のふるい分け試験 (細骨材) (JIS A 1102)

様式	名	称
13-2	骨材のふるい分け試験 (粗骨材)	(JIS A 1102)
14	骨材試験成績一覧表	
15	コンクリートのスランプ試験およびフレッシュコンクリートの空気量の圧力による試験(空気室圧力方法)	(JIS A 1101) (JIS A 1128)
16	コンクリートの圧縮強度試験	(JIS A 1108)
17	コンクリートの曲げ強度試験	(JIS A 1106)
18	フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験	(JIS A 5308) (JIS A 1144)
19	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)	(JIS A 5308) (JIS A 1145)
20	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)	(JIS A 5308) (JIS A 1146)
21	鉄筋の曲げ試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2248)
22	鉄筋の引張試験	(JIS G 3112) (JIS Z 2241)
	<b>(土質関係)</b>	
23	土の含水比試験	(JIS A 1203) (JGS 0121)
24-1	砂置換法による土の密度試験 (較正)	(JIS A 1214)
24-2	砂置換法による土の密度試験 (測定)	(JIS A 1214)
25	土の収縮定数試験	(JIS A 1209) (JGS 0145)
26-1	C B R 試験 (初期状態、吸水膨張試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-2	C B R 試験 (貫入試験)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
26-3	C B R 試験 (室内試験結果)	(JIS A 1211) (JGS 0721)
27	修正 C B R 試験	
28	現場 C B R 試験	(JIS A 1222)
29	道路の平板載荷試験	(JIS A 1215)
30	土の直接せん断試験	

様式	名	称
31	ポータブルコーン貫入試験	(JGS 1431)
32	締固めた土のコーン指数試験	(JIS A 1228) (JGS 0716)
33-1	土の一軸圧縮試験 (初期状態、軸圧縮過程)	(JIS A 1216) (JGS 0511)
33-2	土の一軸圧縮試験 (強度・変形特性)	(JIS A 1216) (JGS 0511)
34-1	土の液性限界・塑性限界試験 (測定)	(JIS A 1205) (JGS 0141)
34-2	土の液性限界・塑性限界試験 (試験結果)	(JIS A 1205) (JGS 0141)
35	土粒子の密度試験 (検定、測定)	(JIS A 1202) (JGS 0111)
36-1	土の粒度試験 (ふるい分析)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
36-2	土の粒度試験 (2mmふるい通過分分析)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
36-3	土の粒度試験 (粒径加積曲線)	(JIS A 1204) (JGS 0131)
37-1	突固めによる土の締固め試験 (測定)	(JIS A 1210) (JGS 0711)
37-2	突固めによる土の締固め試験 (締固め特性)	(JIS A 1210) (JGS 0711)
	(アスファルト関係)	
38	アスファルト試験成績一覧表	
39	アスファルトの粘度温度表	
40	粗骨材試験成績一覧表 (碎石)	
41	細骨材試験成績一覧表 (砂)	
42	石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表	
43	骨材粒度曲線表 (アスファルト)	
44	合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例	
45	骨材の推定変動範囲 (細骨材及びスクリーニングス)	
46	骨材配合率の密度補正	

様式	名 称
47	骨材配合率及び合成粒度 (室内試験)
48	合成粒度曲線 (室内試験)
49	試験配合表 (アスファルト量別)
50-1	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式・理論最大密度)
50-2	アスファルト混合物の安定度試験 (マーシャル式)
51	試験結果図表
52	マーシャル試験による基準アスファルト量
53	フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験
54	粗骨材のすりへり試験 (JIS A 1121)
55	アスファルトの抽出試験
56	路面の平坦性試験表 (標準偏差)
57	プルーフローリング試験
	(品質管理関係)
58-1	$\bar{X}$ - R 管理データシート
58-2	$\bar{X}$ - R 管理データシート
58-3	$\bar{X}$ - R 管理図
59-1	X - R <sub>s</sub> - R <sub>m</sub> 管理データシート
59-2	X - R <sub>s</sub> - R <sub>m</sub> 管理データシートの2
60	X - R <sub>s</sub> - R <sub>m</sub> 管理図

(出来形管理関係)

様式 1

平成 年度 工事

出来形管理図表

品質管理図表

種 目

---

---

---

---

農業事務所

受注会社名

- 注) 1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴り  
とすることができる。  
2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。


出来形管理図表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	設計値との差

<p>記入事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。</li> <li>2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。</li> <li>3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。</li> <li>4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。</li> <li>5. Fを算出する A 値は、E&gt;0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、 A 値が+側か-側の片方、若しくは両方ない場合は、その符号側はF= E とする。</li> </ol>	<p>測定箇所図</p> 
---	---





測定結果一覧表

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E

記入事項

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の片方、若しくは両方にない場合は、その符号側はF=|E|とする。

鋼管溶接測定結果一覧表

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

測定位置	実 測 値				管理基準値	摘 要
	X	Y	X'	Y'		

鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

測定位置	工種	項目	判定		摘要
			良	否	

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

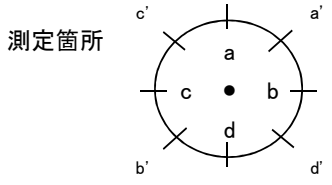
工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

管種名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)					管理基準値	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				(参考) 規格値	判定	備考
			a	b	c	d	平均					a	b	c	d			

- 注、
1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所を平均とする。
  2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
  3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。  
また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
  4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。
  5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。



<記載例>

測定位置	測定値				
	a	b	c	d	平均
NO.〇〇受 (受口側データ記載)					
" 挿 (挿口側データ記載)					

(参考)  
 標線による計測      ジョイント間隔 = 受け口長 $l_2$  - (標線長 $h$  - 測定長 $x_1$ )  
 標線によらない計測      ジョイント間隔 = 受け口長 $l_2$  - (管有効長 $L$  - 測定長 $x_2$ )

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

管種(長さ) \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

測定位置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D <sub>U</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>h</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>U</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>h</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>U</sub> mm	たわみ率 %	D <sub>h</sub> mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D_U + t)] \text{ 又は } [2R - (D_h + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。  
 2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。  
 3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 3-6

鉄筋組立検査結果一覧表

工事名 : \_\_\_\_\_

受注会社名 : \_\_\_\_\_

工種名 : \_\_\_\_\_

番号	測定年月日	径(mm)及び本数(本)		中心間隔(mm)				かぶり(mm)			組立状況(継手長、曲げ状況、結束等)	備考
		設計値	判定	設計値	検査値	設計値との差	判定	設計値	検査値	判定	判定	

測定箇所 : (設計上の位置及び名称) \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

記入事項

1. かぶりの許容誤差は±φかつ最小かぶり以上とする。
2. 鉄筋間隔の許容誤差は±φとする。
3. 判定欄は合格、不合格を記入する。

様式 4

杭打ち成績表

工事名 : \_\_\_\_\_

受注会社名 : \_\_\_\_\_

工種名 : \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

杭打ち 月 日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図

適用公式名 : \_\_\_\_\_

設計支持力 : \_\_\_\_\_

(コンクリート関係)

様式 5

セメントの密度試験  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日 曜			天候
試験日の状態	室温 ( °C )	湿度 ( % )	水温 ( °C )	
試料	-----			
	-----			
測定番号	1	2	3	4
① フラスコの番号				
② 初めの鉢油の読み (ml)				
③ 試料の質量 (g)				
④ 試料と鉢油の読み (ml)				
⑤ 密度 $\frac{\textcircled{3}}{\textcircled{4} - \textcircled{2}}$				
⑥ 許容差				
⑦ 平均値				
考察	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			



セメント粉末度試験(比表面積試験)  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日 曜 天候			
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)	
試料	-----			
①セルと水銀との質量 (g)				
②セルの質量 (g)				
③水銀の質量 ① - ② (g)				
④(セル)+(セメント)+(水銀)の質量 (g)				
⑤(セル)+(セメント)の質量 (g)				
⑥水銀の質量 ④ - ⑤ (g)				
⑦水銀の密度 (g/cm <sup>3</sup> )				
⑧ベットの体積 $\frac{③ - ⑥}{⑦}$ (cm <sup>3</sup> )				
⑨平均値				
測定番号	1	2	3	4
試料の質量 (g)				
標準試料降下時間 t <sub>0</sub> (s)				
標準試料比表面積 (cm <sup>2</sup> /g)				
セメント降下時間 t (s)				
セメント比表面積 (cm <sup>2</sup> /g)				
許容差				
平均値				
考察	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			
	-----			

セメント粉末度試験（網ふるい試験）  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日	曜	天候		
試験日の状態	室温 ( °C )	湿度 ( % )			
試料	-----				
	-----				
測定番号	1	2	3	4	
① 試料の質量 (g)					
② 残留質量 (g)					
③ 粉末度 $\frac{\text{②}}{\text{①}} \times 100$ (%)					
④ 平均値 (%)					
考察	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				

様式 7

セメントの凝結試験  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成	年	月	日	曜	天候				
試験日の状態	室内の温度 ( °C )			室内の湿度 ( % )			水温 ( °C )			
	湿気箱内の温度 ( °C )			湿気箱内の湿度 ( % )						
試料	-----									
	-----									
測定番号					1	2	3	4		
試料の質量 (g)										
水の量 (mℓ)										
注水時刻 (h・min)										
始発時刻 (h・min)										
始発時間 (min)										
終結時刻 (h・min)										
終結時間 (h)										
考 察										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										
-----										

セメントの安定性試験  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜			天候	
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)		
養生温度(°C)					
試料	-----				
	-----				
	-----				
測定番号	1	2	3	4	
試料の質量 (g)					
水の量 (ml)					
ひび割れ・反りの有無					
試験結果					
考察	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				

様式 9

セメントの強さ試験  
(JIS R 5201)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日		平成	年	月	日	平成	年	月	日	平成	年	月	日	平成	年	月	日		
試験日の状態	室温 (°C)																		
	湿度 (%)																		
養生温度 (°C)																			
材 齢 (日)																			
供試体質量 (g) (脱型直後)	1																		
	2																		
	3																		
供試体質量 (g) (強さ試験直前)	1																		
	2																		
	3																		
曲 げ 試 験	最大荷重 (N)	1																	
		2																	
		3																	
	曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )	1																	
		2																	
		3																	
平均値 (N/mm <sup>2</sup> )																			
圧 縮 試 験	最大荷重 (N)	1																	
		2																	
		3																	
		4																	
		5																	
		6																	
	圧縮強さ (N/mm <sup>2</sup> )	1																	
		2																	
		3																	
		4																	
		5																	
		6																	
平均値 (N/mm <sup>2</sup> )																			
供試体作製日 : 平成 年 月 日																			

**細骨材の密度および吸水率試験**  
(JIS A 1109)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜			天候	
試験日の状態	室温 ( °C )	湿度 ( % )	水温 ( °C )	乾燥温度 ( °C )	
試料					
測定番号		1	2	3	4
① ピクノメーターの番号					
② 500mlの目盛りまで水を満たしたピクノメーターの質量 $m_1$ (g)					
③ 試料の質量 $m_2$ (g)					
④ 試料と水で500mlの目盛りまで満たしたピクノメーターの質量 $m_3$ (g)					
⑤ 密度 $\frac{③ \times \rho_w}{② + ③ - ④}$ (g/cm <sup>3</sup> )					
⑥ 平均値					
⑦ 平均値との差					
⑧ 試料の質量 $m_4$ (g)					
⑨ 試料の乾燥質量 $m_5$ (g)					
⑩ 吸水率 $\frac{⑧ - ⑨}{⑨} \times 100$ (%)					
⑪ 平均値 (%)					
⑫ 平均値との差 (%)					
<p>考察</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>					
					試験温度における水の密度 $\rho_w =$ g/cm <sup>3</sup>

様式 11

粗骨材の密度および吸水率試験  
(JIS A 1110)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成      年      月      日      曜      天候				
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)	
試料	-----				
測定番号		1	2	3	4
① 試料の質量 $m_1$ (g)					
② 水中のかごと試料の見掛けの質量 $m_2$ (g)					
③ 水中のかごの見掛けの質量 $m_3$ (g)					
④ 水中の試料の見掛けの質量 $(m_2 - m_3)$ (g)					
⑤ 密度 $\frac{① \times \rho_w}{① - ④}$ (g/cm <sup>3</sup> )					
⑥ 平均値					
⑦ 平均値との差					
⑧ 乾燥後の試料の質量 $m_4$ (g)					
⑨ 吸水率 $\frac{① - ⑧}{⑧} \times 100$ (%)					
⑩ 平均値 (%)					
⑪ 平均値との差 (%)					
考 察					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
試験温度における水の密度 $\rho_w =$ g/cm <sup>3</sup>					

細骨材の表面水率試験  
(JIS A 1111)

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

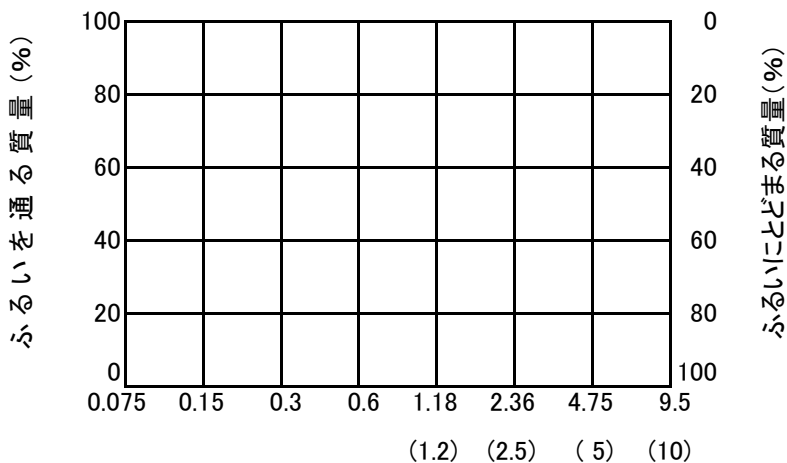
試験日	平成 年 月 日 曜	天候			
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)		
試料	-----				
	d <sub>s</sub> : 試料の表面乾燥密度 = g/cm <sup>3</sup>				
測定番号	1	2	3	4	
① 試料の質量 m <sub>1</sub> (g)					
② (フラスコ)+(マークまでの水)の質量 m <sub>2</sub> (g)					
③ (フラスコ)+(マークまでの水)+ (試料) の質量 m <sub>3</sub> (g)					
④ m=①+②-③ (g)					
⑤ ms = $\frac{\textcircled{1}}{d_s}$					
⑥ 表面水率 H = $\frac{\textcircled{4}-\textcircled{5}}{\textcircled{1}-\textcircled{4}} \times 100$ (%)					
⑦ 平均値 (%)					
⑧ 平均値との差 (%)					
⑨ 試料を覆う水量 V <sub>1</sub> (mL)					
⑩ (試料)+(水)の容積 V <sub>2</sub> (mL)					
⑪ V=⑩-⑨ (g)					
⑫ 表面水率 = H = $\frac{\textcircled{11}-\textcircled{5}}{\textcircled{1}-\textcircled{11}} \times 100$ (%)					
⑬ 平均値 (%)					
⑭ 平均値との差 (%)					
考察	-----				
	-----				
	-----				
	-----				
	-----				



骨材のふるい分け試験（細骨材）  
(JIS A 1102)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜 天候				
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)		
試料	-----				
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
9.5 (10)					
4.75 (5)					
2.36 (2.5)					
1.18 (1.2)					
0.6					
0.3					
0.15					
0.075					
受皿					
計					
粗粒率					



ふるいの呼び寸法(mm)、※( )は従来の呼び寸法

ふるい分け曲線

考 察  
 -----  
 -----

骨材のふるい分け試験(粗骨材)  
(JIS A 1102)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日			曜 天候	
試験日の状態	室 温 ( ° C )		湿 度 ( % )		
試 料					
ふるいの呼び寸法 (mm)	各ふるいにとどまる質量の累計		各ふるいにとどまる質量		ふるいを通る質量
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)
最大寸法 (mm)			粗 粒 率		
<p>ふるいの呼び寸法(mm)、※( )は従来の呼び寸法 ふるい分け曲線</p>					考 察 ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----

骨材試験成績一覽表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料採取地名									
試験日									
ふる い 分 け	粗 骨 材	150mm以上通過質量百分率%							
		150 ~ 100 "							
		100 ~ 80 "							
		80 ~ 60 "							
		60 ~ 50 "							
		50 ~ 40 "							
		40 ~ 30 "							
		30 ~ 25 "							
		25 ~ 20 "							
		20 ~ 15 "							
		15 ~ 10 "							
		10 ~ 5 "							
		5以下 "							
		粗粒率							
細 骨 材	細 骨 材	5mm以上通過質量百分率%							
		5 ~ 2.5 "							
		2.5 ~ 1.2 "							
		1.2 ~ 0.6 "							
		0.6 ~ 0.3 "							
		0.3 ~ 0.15 "							
		0.15以下 "							
粗粒率									
細 骨 材	細 骨 材	密度							
		単位容積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>							
		単位容積質量(軽装) kg/m <sup>3</sup>							
		安定性 %							
		吸水量 %							
粗 骨 材	粗 骨 材	洗い試験 %							
		密度							
		単位容積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>							
		単位容積質量(軽装) kg/m <sup>3</sup>							
		安定性 %							
		吸水量 %							
		すりへり減量 %							
		洗い試験 %							
軟石量試験 %									
細長扁平試験 %									
備考									

様式 15

コンクリートのスランピング試験およびフレッシュコンクリートの  
空気量の圧力による試験(空気室圧力方式)  
(JIS A 1101、JIS A 1128)

工事名

受注会社名

工種名

測定者  印

試験日	平成 年 月 日 曜					天候						
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)			水温 (°C)					
試験料												
示方配合	粗骨材 の最大 寸法  (mm)	スラン ピング  (cm)	水セメ ント比 W/C (%)	空気 量 (%)	細骨 材率 s/a (%)	単位量(kg/m <sup>3</sup> )						
						水	セメント	混和 材	細骨 材	粗骨材G		混和剤 (g/m <sup>3</sup> )
	W	C	F	S	mm と mm	mm と mm						
測定番号	1			2			3					
① スランピング (cm)												
② 突き棒でコンクリートの側面をたたいたときの状態												
③ 見掛けの空気量 (%)												
④ 骨材修正係数 (%)												
⑤ 空気量 ③-④ (%)												
⑥ コンクリートの温度 (°C)												
考察	<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>											

コンクリートの圧縮強度試験  
(JIS A 1108)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜			天候							
試験日の状態	室温 (°C)		湿度 (%)		水温 (°C)						
試料											
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )					
						水 W	セメント C	混和材 F	細骨材 S	粗骨材G	
									mm ? mm	mm ? mm	
材 齢 (日)											
養生方法					養生温度 (°C)						
供試体番号	1		2		3		4				
平均直径 (mm)											
断面積 (mm <sup>2</sup> )											
平均高さ (mm)											
スランプ (cm)											
質 量 (kg)											
最大荷重 (N)											
圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )											
平均圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )											
見掛け密度 (kg/m <sup>3</sup> )											
平均見掛け密度 (kg/m <sup>3</sup> )											
供試体の破壊状況のスケッチ											
考 察	-----										
	-----										
	-----										
	-----										
	-----										

**コンクリートの曲げ強度試験**  
(JIS A 1106)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成		年	月	日	曜	天候								
試験日の状態	室温 (°C)			湿度 (%)			水温 (°C)								
試験料															
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 W/C (%)	空気量 (%)	細骨材率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )							粗骨材G mm ? mm	粗骨材G mm ? mm	混和剤 (g/m <sup>3</sup> )
						水	セメント	混和材	細骨材						
						W	C	F	S						
材 齢 (日)															
養生方法							養生温度 (°C)								
供試体番号	1			2			3			4					
平均幅 (mm)															
平均高さ (mm)															
スパン (mm)															
最大荷重 (N)															
曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )															
平均曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )															
破壊断面とこれに近い支点との距離 (mm)															
供試体の破壊状況のスケッチ															
考 察	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>														

様式 18

フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験  
(JIS A 5308、JIS A 1144)

工事名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_  
測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成 年 月 日				天候						
試料	採取方法										
	保管方法										
示方配合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単位容積質量 (kg/m <sup>3</sup> )					
						水	セメント	細骨材	粗骨材		混和材料
	~ mm/mm	~ mm/mm									
測定内容	分析方法										
	測定器名及び指示薬										
測定回数	1	2	3	平均							
塩化物イオン濃度 (%)											
塩化物量 (kg/m <sup>3</sup> )						判定基準			測定場所		
						_____以下			現場	工場	

様式 19

骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法）  
(JIS A 5308、JIS A 1145)

工事名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_  
測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験		日		平成		年		月		日														
骨材の種類	骨材の産地	繰返し	試料量 (g)	反応時間 (hf)	アルカリ濃度減少量 (Rc)					溶解シリカ量 (Sc) (mmol/l)									有害度の判定					
					(mmol/l)					吸光度法				質量法			原子吸光度法							
					V <sub>1</sub> (ml)	V <sub>2</sub> (ml)	V <sub>3</sub> (ml)	Rc	平均値	V (ml)	C (mg/l)	Sc	平均値	W (g)	Sc	平均値	C (mg/l)	Sc		平均値				
		1																						
		2																						
		3																						
		1																						
		2																						
		3																						
		1																						
		2																						
		3																						
備考																								



骨材のアルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)  
(JIS A 5308、JIS A 1146)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日		曜 天候				
試験日の状態	気温 (°C)	室温 (°C)	容器内温度 (°C)	容器内湿度 (%)			
セメント	種別 全アルカリ						
骨材	産地 種別						
区分	材 齢	脱型時	2週間	4週間	8週間	3ヶ月	6ヶ月
① 基長 L (有効ゲージ長) ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
② 供試体脱型時のダイヤル ゲージの読み $X_{ini}$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
③ 同時測定した標準尺のダ イヤルゲージの読み $sX_{ini}$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
④ 材齢における供試体のダ イヤルゲージの読み $X_i$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑤ 材齢における標準尺のダ イヤルゲージの読み $sX_i$ ( $\times 10^{-3}$ mm)	1						
	2						
	3						
⑥ 膨張率 (%) $\frac{(\text{④}-\text{⑤})-(\text{②}-\text{③})}{L} \times 100$	1						
	2						
	3						
	平均						
判 定							
精 度							
考 察							
-----							
-----							
-----							
-----							

鉄筋の曲げ試験  
(JIS G 3112、JIS Z 2248)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成	年	月	日	曜	天候
試験日の状態	気温 (°C)			室温 (°C)		
試験料	-----					
試験料番号						
呼び径 (mm)						
実測径 (mm)						
種別						
記号						
曲げ角度 (度)						
内側半径 (mm)						
判定						
考察	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					
	-----					

鉄筋の引張試験  
(JIS G 3112、JIS Z 2241)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜 天候	
試験日の状態	気温 (°C)	室温 (°C)
試験料	-----	
試験料番号		
呼び径 (mm)		
実測径 (mm)	最大径	
	最小径	
	平均	
断面積 (mm <sup>2</sup> )		
種別		
記号		
標点距離 (mm)		
降伏点荷重 (N)		
降伏点 (N/mm <sup>2</sup> )		
引張荷重 (N)		
引張強さ (N/mm <sup>2</sup> )		
伸び	(mm)	
	(%)	
切断位置による記号		
試験片		
判定		
考察	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----	

(土質関係)

様式 23

土の含水比試験

(JIS A 1203、JGS0121)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号(深さ)						
容器 NO.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

$m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

砂置換法による土の密度試験(校正)  
(JIS A 1214)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

I. ジャーとピクノメータートップとの体積の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに水を満たした質量 $m_2$ g					
測定器の質量 $m_1$ g					
満たした水の質量 $m_2 - m_1$ g					
測定器中の水の温度 $t$ °C					
$t$ °Cにおける水1g当たりの体積 $K$ cm <sup>3</sup> /g					
ジャーとピクノメータートップとの体積 $V_1 = K(m_2 - m_1)$ cm <sup>3</sup>					
平均値 $V_1$ cm <sup>3</sup>					

II. 試験用砂の乾燥密度の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした質量 $m_3$ g					
測定器の質量 $m_1$ g					
測定器中の砂の質量 $m_4 = m_3 - m_1$ g					
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds} = m_4 / V_1$ g/cm <sup>3</sup>					
平均値 $\rho_{ds}$ g/cm <sup>3</sup>					

III. 漏斗を満たすのに必要な砂の質量の校正

測定 NO.	1	2	3	4	5
測定器と入れた砂の質量 $m_3'$ g					
漏斗を満たした砂を除き測定器と残った砂の質量 $m_5$ g					
漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6 = m_3' - m_5$ g					
平均値 $m_6$ g					

特記事項

砂置換法による土の密度試験(測定)  
(JIS A 1214)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

測定器 NO.	土質名称
試験用砂の乾燥密度 $\rho_{ds}$ g/cm <sup>3</sup>	漏斗を満たすのに必要な砂の質量 $m_6$ g
試験孔 NO.	
最大粒径 mm	
容器 NO.	
容器質量 g	
(試験孔から取り出した土 + 容器) 質量 g	
試験孔から取り出した湿潤土の質量 $m_7$ g	
試験孔から取り出した土の炉乾燥質量 $m_0=100m_7/(w+100)$ g	
ジャーとピクノメータトップに砂を満たした質量 $m_3$ g	
測定器と残った砂の質量 $m_8$ g	
試験孔および漏斗に入れた砂の質量 $m_9=m_3-m_8$ g	
試験孔を満たすのに要する砂の質量 $m_{10}=m_9-m_6$ g	
試験孔の体積 $V_0=m_{10}/\rho_{ds}$ cm <sup>3</sup>	
湿潤密度 $\rho_t=m_7/V_0$ g/cm <sup>3</sup>	
乾燥密度 $\rho_d=m_0/V_0$ g/cm <sup>3</sup>	
容器 NO.	
(試料 + 容器) 質量 $m_a$ g	
(炉乾燥試料 + 容器) 質量 $m_b$ g	
容器質量 $m_c$ g	
w %	
容器 NO.	
(試料 + 容器) 質量 $m_a$ g	
(炉乾燥試料 + 容器) 質量 $m_b$ g	
容器質量 $m_c$ g	
w %	
平均値 w %	
含水比 w %	
湿潤密度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>	
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>	

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

土の収縮定数試験  
(JIS A 1209、JGS 0145)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)							
測定 NO.							
収縮皿 NO.							
湿潤試料の体積	ガラス板の質量 $m_g$ g						
	収縮皿の質量 $m_c$ g						
	水の入った収縮皿とガラス板の質量 $m$ g						
	水の温度 $T$ °C						
	水の密度 $\rho_w$ g/cm <sup>3</sup>						
	湿潤試料の体積 $V$ cm <sup>3</sup>						
炉乾燥試料の体積	パラフィン塗布後の試料の質量 $m_1$ g						
	水中における吊り皿の見掛けの質量 $m_2$ g						
	水中における試料および吊り皿の見掛け質量 $m_3$ g						
	炉乾燥試料の質量 $m_s$ g						
	パラフィンの密度 $\rho_p$ g/cm <sup>3</sup>						
	炉乾燥試料の体積 $V_o$ cm <sup>3</sup>						
含水比	湿潤試料と収縮皿の質量 $m_a$ g						
	湿潤試料の含水比 $w$ %						
	平均値 $w$ %						
収縮限界	収縮限界 $w_s$ %						
	平均値 $w_s$ %						
収縮比	収縮比 $R$						
	平均値 $R$						
ある含水比 $w_1$ %							
体積収縮率 $C$ %							
線収縮 $L_s$ %							

特記事項

$$V = \frac{(m - m_c - m_g)}{\rho_w}$$

$$w_s = w - \frac{(V - V_o) \rho_w}{m_s} \times 100$$

$$R = \frac{m_s}{V_o \cdot \rho_w}$$

$$C = (w_1 - w_s)R$$

$$V_o = \frac{(m_1 - m_3 + m_2)}{\rho_w} - \frac{(m_1 - m_c)}{\rho_n}$$

$$w = \frac{(m_s - m_c - m_g)}{m_s} \times 100$$

$$L_s = \left[ 1 - \sqrt[3]{\frac{100}{C+100}} \right] \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

CBR試験(初期状態、吸水膨張試験)  
(JIS A 1211、JGS 0721)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg	土質名称		
突き固め方法		落下高さ	cm	自然含水比 $w_n$	%	
試料準備	準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数 回/層	最適含水比 $w_{opt}$	%	
	空気乾燥前含水比 %		突固め層数 層	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$	g/cm <sup>3</sup>	
準備	試料調整後含水比 $w_0$ %	モールド	内径	cm	荷重板質量	kg
			高さ <sup>1)</sup>	cm	モールド容量 $V$	cm <sup>3</sup>

供試体 NO. _____								
含水比	容器 NO. _____							
	(試料+容器)質量 $m_a$	g						
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$	g						
	容器質量 $m_c$	g						
	含水比 $w_1$	%						
平均値 $w_1$		%						
密度	(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup>		g					
	モールド質量 $m_1$ <sup>2)</sup>		g					
	湿潤密度 $\rho_t$		g/cm <sup>3</sup>					
	乾燥密度 $\rho_d$		g/cm <sup>3</sup>					
吸水膨張試験	水浸時間 $h$	時刻	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm	変位計の読み	膨張量mm
	0							
	1							
	2							
	4							
	8							
	24							
	48							
	72							
	96							
(試料+モールド)質量 $m_3$ <sup>2)</sup>		g						
膨張比 $\gamma_e$		%						
湿潤密度 $\rho_t'$		g/cm <sup>3</sup>						
乾燥密度 $\rho_d'$		g/cm <sup>3</sup>						
平均含水比 $w'$		%						

特記事項 \_\_\_\_\_

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く
- 2) モールドの質量は有孔底板を含む

$$\gamma_e = \frac{\text{供試体の膨張量 (mm)}}{\text{供試体の最初の高さ (125mm)}} \times 100$$

$$\rho_t' = \frac{m_3 - m_1}{\sqrt{1 + \gamma_e / 100}} \quad \rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d' = \frac{\rho_d}{1 + \gamma_e / 100} \quad \rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w_1 / 100}$$

$$w' = \left[ \frac{\rho_t'}{\rho_d'} - 1 \right] \times 100 \quad w_1 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$



**C B R 試 験 ( 貫 入 試 験 )**  
(JIS A 1211、JGS 0721)

工 事 名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試 験 条 件		水浸、非水浸		貫入速さ mm/min				荷重板質量 kg							
養 生 条 件		日 空 気 中		荷 重 計 NO.				貫入スピンドルの断面積 cm <sup>2</sup>							
		日 水 浸		容 量 kN				較正係数 $\frac{MN/m^2}{目盛}$ $\frac{kN}{目盛}$							
供 試 体 NO.				供 試 体 NO.				供 試 体 NO.							
貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重		貫 入 量 mm		荷重強さ、荷重					
読み		平均	荷重計 の読み	MN/m <sup>2</sup> kN	読み		荷重計 の読み	MN/m <sup>2</sup> kN	読み		平均	荷重計 の読み	MN/m <sup>2</sup> kN		
1	2				1	2			1	2					
0					0				0						
0.5					0.5				0.5						
1.0					1.0				1.0						
1.5					1.5				1.5						
2.0					2.0				2.0						
2.5					2.5				2.5						
3.0					3.0				3.0						
4.0					4.0				4.0						
5.0					5.0				5.0						
7.5					7.5				7.5						
10.0					10.0				10.0						
12.5					12.5				12.5						
貫入試験後の 含水比	容器NO.				貫入試験後の 含水比	容器NO.				貫入試験後の 含水比	容器NO.				
	m <sub>a</sub> g					m <sub>a</sub> g					m <sub>a</sub> g				
	m <sub>b</sub> g					m <sub>b</sub> g					m <sub>b</sub> g				
	m <sub>c</sub> g					m <sub>c</sub> g					m <sub>c</sub> g				
	w <sub>2</sub> %					w <sub>2</sub> %					w <sub>2</sub> %				
平均値 w <sub>2</sub> %				平均値 w <sub>2</sub> %				平均値 w <sub>2</sub> %							

特記事項

$$w_2 = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m<sub>a</sub> : (試料+容器)質量

m<sub>b</sub> : (炉乾燥試料+容器)質量

m<sub>c</sub> : 容器質量

[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

[1kN ≒ 102kgf]

**CBR試験(室内試験結果)**  
(JIS A 1211、JGS 0721)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

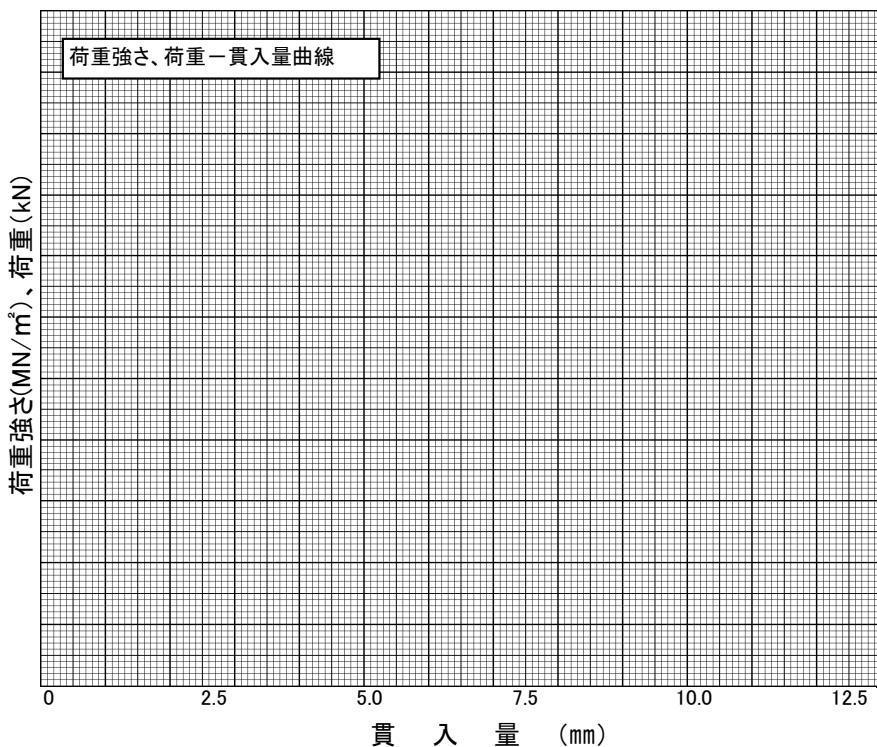
試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法	締固めた土、乱さない土	ランマー質量	kg		土質名称
突固め方法		落下高さ	cm		空気乾燥前含水比 %
試料の準備方法	非乾燥法、空気乾燥法	突固め回数	回/層		自然含水比 $w$ %
試験条件	水浸、非水浸	突固め層数	層		最適含水比 $w_{opt}$ %
養生条件	日空气中	モールド	内径	cm	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$ g/cm <sup>3</sup>
	日水浸		高さ <sup>1)</sup>	cm	

供試体 NO.				
吸水膨張試験	前	含水比 $w$ %		
		乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>		
	後	膨張比 $\gamma_e$ %		
		平均含水比 $w'$ %		
		乾燥密度 $\rho'_d$ g/cm <sup>3</sup>		
貫入試験		試験後の含水比 $w_2$ %		
		貫入量2.5mmにおけるCBR %		
		貫入量5.0mmにおけるCBR %		
		CBR %		

平均CBR %

---



特記事項

- 1) スペーサーディスクの高さを差引く。

[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]  
[1kN ≒ 102kgf]

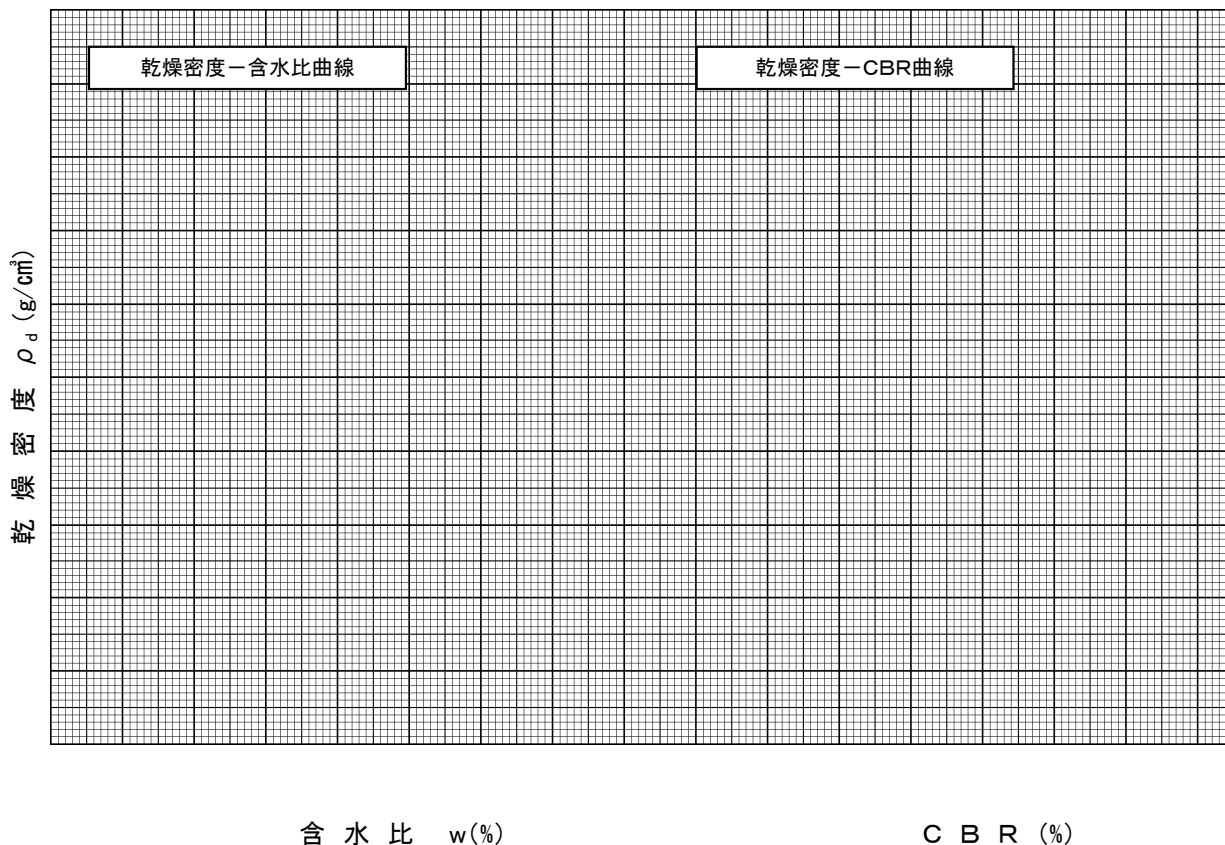
貫入量mm		2.5	5.0
荷重強さ重	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
	供試体 NO.		
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>		6.9	10.3
標準荷重 kN		13.4	19.9

修正 C B R 試験

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

突固め回数	回/層	( 層)			( 層)			( 層)		
供試体 NO.										
乾燥密度 $\rho_d$	g/cm <sup>3</sup>									
平均値 $\rho_d$	g/cm <sup>3</sup>									
貫入量2.5mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
貫入量5.0mmにおけるCBR	%									
平均値	%									
ランマー質量	kg	最大乾燥密度 $\rho_{dmax}$	g/cm <sup>3</sup>		締固め度	%				
		最適含水比 $w_{opt}$	%		修正CBR	%				



特記事項

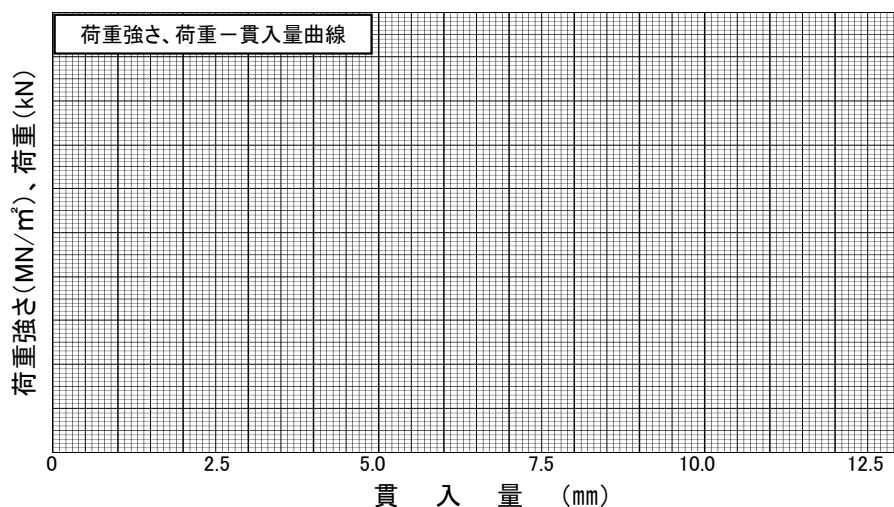
現場 C B R 試験  
(JIS A 1222)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

貫入スピンドル直径 cm		貫入スピンドル面積 m <sup>2</sup>		貫入速度 mm/min	
ジャッキの種類		ジャッキの能力 kN		反力装置の種類	
荷重計容量 kN		荷重計の MN/m <sup>2</sup> /目盛 校正係数 kN/目盛		天	候

測点 NO.				測点 NO.					
貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷重計 の読み	荷重強さ, 荷重 MN/m <sup>2</sup> ,kN	貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷重計 の読み	荷重強さ, 荷重 MN/m <sup>2</sup> ,kN
1	2				1	2			
0.0					0.0				
0.5					0.5				
1.0					1.0				
1.5					1.5				
2.0					2.0				
2.5					2.5				
3.0					3.0				
4.0					4.0				
5.0					5.0				
7.5					7.5				
10.0					10.0				
12.5					12.5				
貫入量2.5mmにおけるCBR			%	貫入量2.5mmにおけるCBR			%		
貫入量5.0mmにおけるCBR			%	貫入量5.0mmにおけるCBR			%		
CBR			%	CBR			%		
試験箇所の含水比 w			%	試験箇所の含水比 w			%		



貫入量mm	2.5	5.0
荷重強さ	測点 N.O.	測点 N.O.
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項

[1kN ≒ 102kgf]  
[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

(社)地盤工学会規格準用

道路の平板載荷試験  
(JIS A 1215)

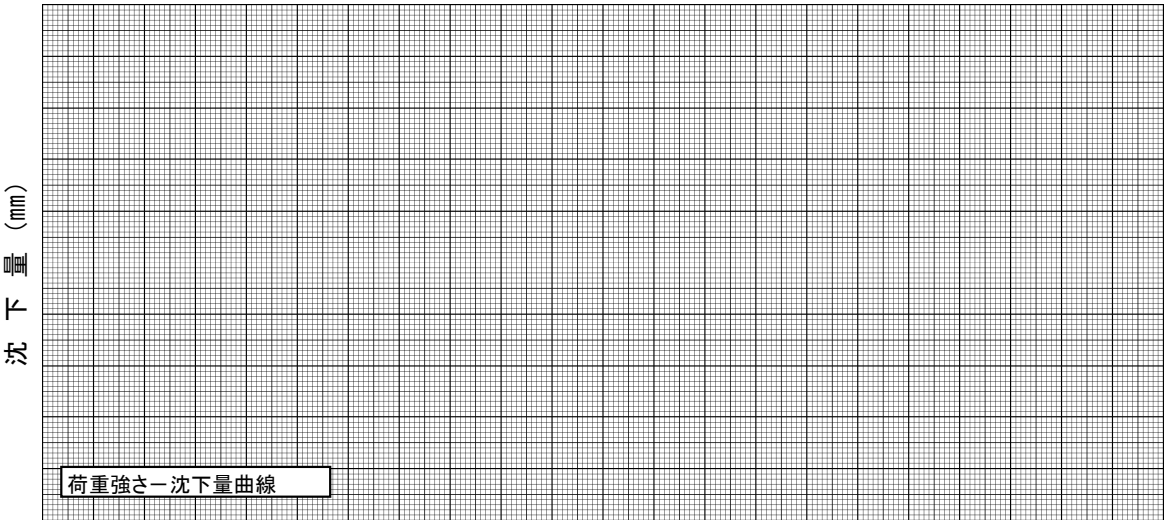
試験日 平成 年 月 日

工事名	測定番号	受注会社名
工種名	測定場所	測定者

載荷板の形状	載荷板の直径 cm	載荷板の面積 A m <sup>2</sup>
ジャッキの種類	ジャッキの能力 kN	反力装置の種類
荷重計容量 kN	荷重計の 校正係数 K kN/m <sup>2</sup> /目盛	天候
計算に用いた沈下量 Smm	荷重強さ p kN/m <sup>2</sup>	地盤反力係数 K <sub>s</sub> MN/m <sup>3</sup>

時間	荷重計の読み R	荷重強さ p=KR kN/m <sup>2</sup>	変位計の読み mm				沈下量 mm
			1	2	3	4	

荷重強さ (kN/m<sup>2</sup>)



特記事項

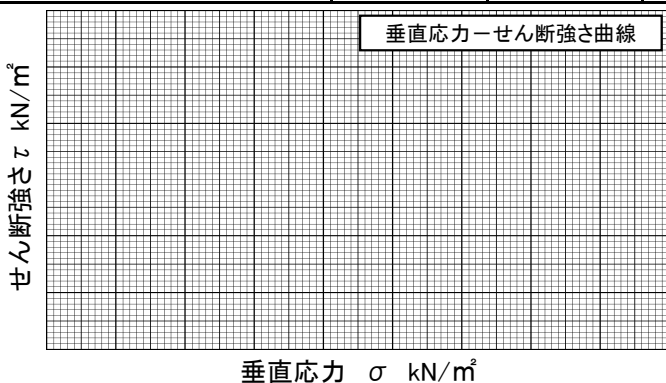
$K_s = p/S$   
 $[1\text{kN/m}^2 \doteq 0.0102\text{kgf/cm}^2]$   
 $[1\text{MN/m}^3 \doteq 0.102\text{kgf/cm}^3]$

土の直接せん断試験

工事名 \_\_\_\_\_  
 調査名・目的 \_\_\_\_\_  
 試料番号 \_\_\_\_\_  
 試料 \_\_\_\_\_ ・乱さない ・乱した  
 試料採取深さ \_\_\_\_\_  
 試験機の型 \_\_\_\_\_  
 供試体の断面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>  
 供試体初期厚さ \_\_\_\_\_ cm  
 供試体初期体積 V \_\_\_\_\_ cm<sup>3</sup>  
 水の密度 ρ<sub>w</sub> \_\_\_\_\_ g/cm<sup>3</sup>

試験日 平成 年 月 日  
 試験方法 : 圧密排水・圧密非排水・非圧密非排水  
 せん断方法 : 応力制御・ひずみ制御  
 せん断速度 (載荷速度) \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>/min  
 せん断力測定用ブルーピングリング NO \_\_\_\_\_  
 換算係数 \_\_\_\_\_ kN/  $\frac{1}{100}$  mm (kN/m<sup>2</sup>/目盛)  
 先行圧密応力 \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>  
 土粒子の密度 G<sub>s</sub> \_\_\_\_\_ g/cm<sup>3</sup>  
 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 測定者 \_\_\_\_\_ 印

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量 m	g					
	湿潤密度 ρ <sub>t</sub> = $\frac{m}{V}$	g/cm <sup>3</sup>					
	含水比 w	%					
	乾燥密度 ρ <sub>d</sub> = $\frac{100 \cdot \rho_t}{100 + w}$	g/cm <sup>3</sup>					
	間隙比 e = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d} - 1$						
飽和度 s <sub>r</sub> = w · G <sub>s</sub> / e	%						
圧密の状態	せん断時の垂直応力 σ	kN/m <sup>2</sup>					
	載荷(圧密)時間						
	沈下量	cm					
圧密後の状態	供試体体積 V'	cm <sup>3</sup>					
	供試体質量 m'	g					
	湿潤密度 ρ <sub>t</sub> ' = $\frac{m'}{V'}$	g/cm <sup>3</sup>					
	含水比 w'	%					
	乾燥密度 ρ <sub>d</sub> ' = $\frac{100 \cdot \rho_t'}{100 + w'}$	g/cm <sup>3</sup>					
	間隙比 e' = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d'}$						
飽和度 s <sub>r</sub> ' = w' · G <sub>s</sub> / e'	%						
せん断時の垂直応力		kN/m <sup>2</sup>					
せん断強さ τ		kN/m <sup>2</sup>					



粘着力 C = \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>

内部摩擦角 φ = \_\_\_\_\_

tan φ = \_\_\_\_\_

先行圧密応力に対するせん断強さ

τ<sub>o</sub> = \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>

注) 含水比の測定は含水量測定試験試料は標準欄フルイ25.4mm

\_\_\_\_\_ による

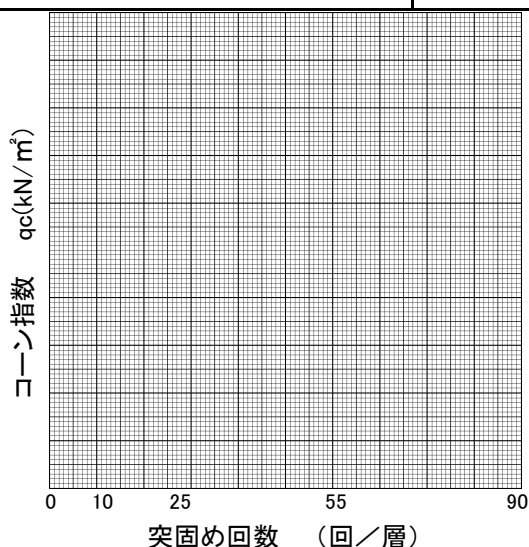


締固めた土のコーン指数試験  
(JIS A 1228、JGS 0716)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		モールド	NO.		荷重計	NO.				
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>			容量 V cm <sup>3</sup>	1000		容量 N				
コーンの底面積 A m <sup>2</sup>	3.24		(モールド+底板)質量 m <sub>1</sub> g			校正係数 K N/目盛				
突 固 め 回 数 回/層		10		25		55		90		
含 水 比	容 器 NO.									
	(試料+容器)質量 m <sub>a</sub> g									
	(炉乾燥試料+容器)質量 m <sub>b</sub> g									
	容 器 質 量 m <sub>c</sub> g									
	w %									
平均値 w %										
供 試 体	(供試体+モールド+底板)質量 m <sub>2</sub> g									
	湿 潤 密 度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>									
	乾 燥 密 度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>									
	飽 和 度 S <sub>r</sub> %									
	空 気 間 隙 率 U <sub>a</sub> %									
コ ー ン 指 数	貫入抵抗力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力
		5 cm								
		7.5 cm								
		10 cm								
	平均貫入抵抗力 Q <sub>c</sub> N									
コ ー ン 指 数 q <sub>c</sub> kN/m <sup>2</sup>										



特記事項

- 1) 突固め回数が1種類の場合は記入の必要はない

水の密度  $\rho_w$  g/cm<sup>3</sup>

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_d - \rho_w / \rho_s}$$

$$U_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_d}{\rho_w} \left[ \frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right] \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN ≒ 102kgf]

[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]



土の一軸圧縮試験(初期状態、軸圧縮過程)  
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

ひずみ速度 %/min		荷重計 NO.	ひずみ速度 %/min		荷重計 NO.		
荷重計容量 N		校正係数 KN/目盛	荷重計容量 N		校正係数 KN/目盛		
供 試 体	NO.	試料の状態		供 試 体	NO.	試料の状態	
	直径				直径		
	高さ				高さ		
	平均直径 $D_0$ cm	断面積 $A_0$ $cm^2$			平均直径 $D_0$ cm	断面積 $A_0$ $cm^2$	
平均高さ $H_0$ cm	質量 m g		平均高さ $H_0$ cm	質量 m g			

含 水 比	容器NO.	供試体の破壊状況		含 水 比	容器NO.	供試体の破壊状況	
	$m_a$ g				$m_a$ g		
	$m_b$ g				$m_b$ g		
	$m_c$ g				$m_c$ g		
	w %				w %		
平均値 w %			平均値 w %				

圧縮量 $\Delta H$ cm	圧縮ひずみ $\varepsilon$ %	荷重計の読み	圧縮力 P N	圧縮応力 $\sigma$ kN/m <sup>2</sup>	圧縮量 $\Delta H$ cm	圧縮ひずみ $\varepsilon$ %	荷重計の読み	圧縮力 P N	圧縮応力 $\sigma$ kN/m <sup>2</sup>

特記事項

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$m_a$  : (試料 + 容器) 質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料 + 容器) 質量  
 $m_c$  : 容器質量

$$\varepsilon = (\Delta H / H_0) \times 100$$

$$\sigma = \frac{P}{A_0} (1 - \varepsilon / 100) \times 10$$

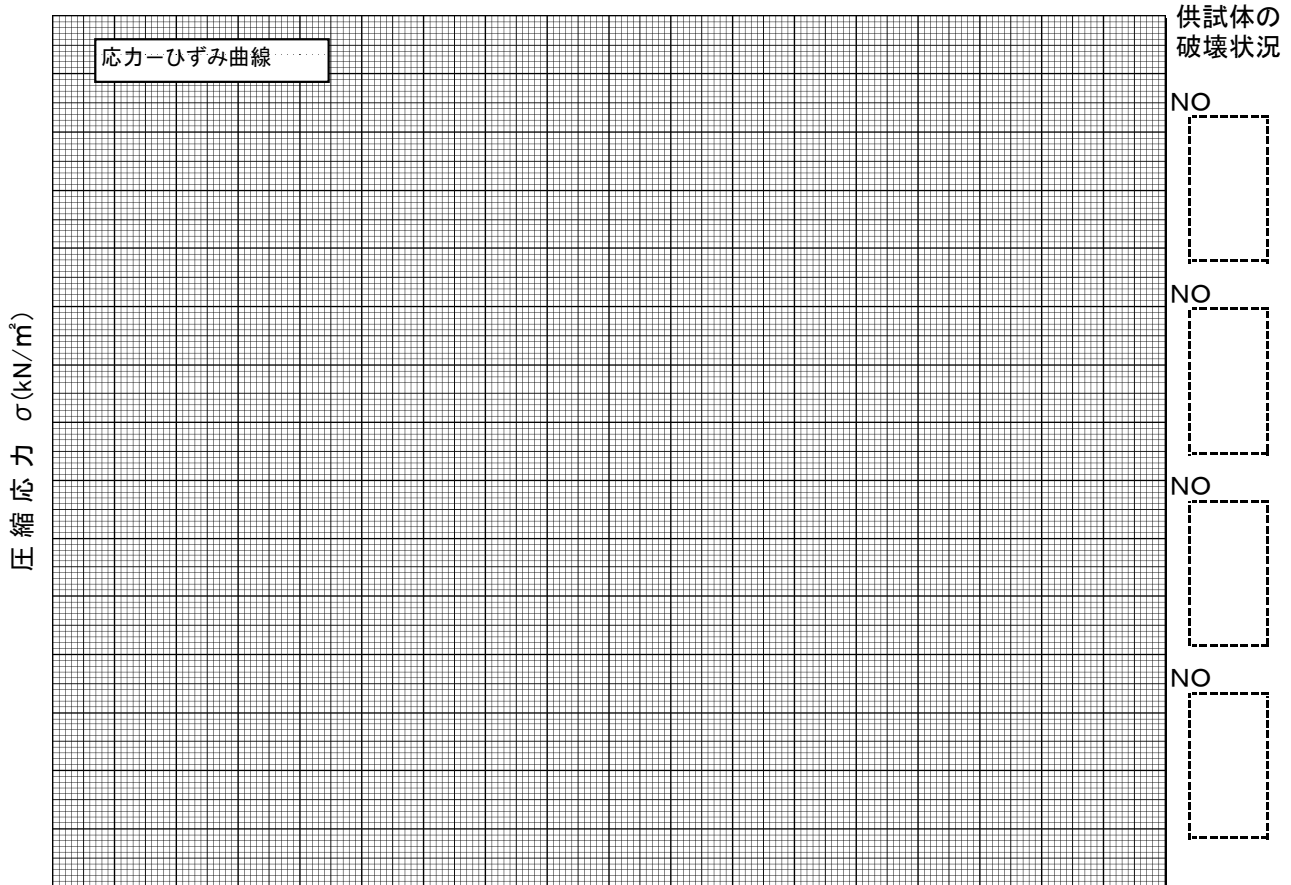
[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]

土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)  
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{1)}$ %		高さ $H_0$ cm			
ひずみ速度 %/min		直径 $D_0$ cm			
特記事項 1) 必要に応じて記載する。  $E_{50} = \frac{q_u}{\frac{2}{\epsilon_{50}}} / 10$		質量 m g			
		湿潤密度 $\rho_t^{1)}$ g/cm <sup>3</sup>			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>			
		破壊ひずみ $\epsilon_f$ %			
		変形係数 $E_{50}^{1)}$ MN/m <sup>2</sup>			
		鋭敏比 $S_t^{1)}$			



圧縮ひずみ  $\epsilon$  (%)

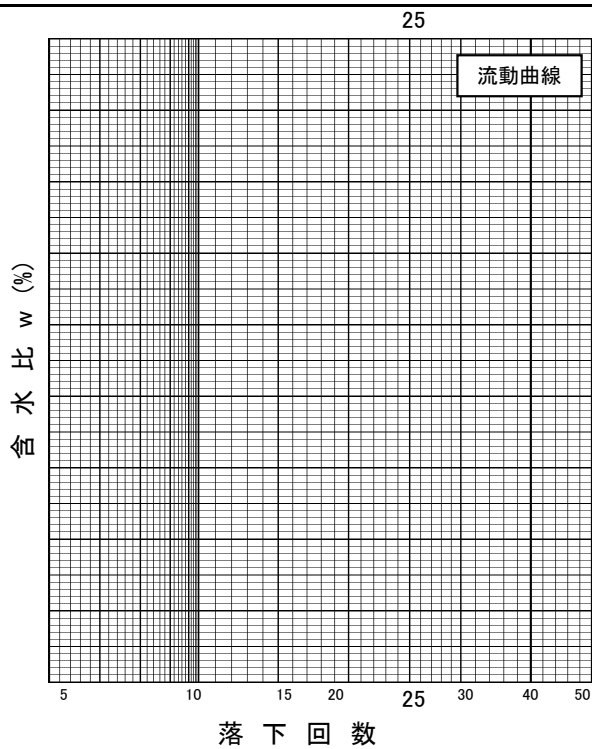
[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]  
[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

土の液性限界・塑性限界試験（測定）  
(JIS A 1205、JGS 0141)

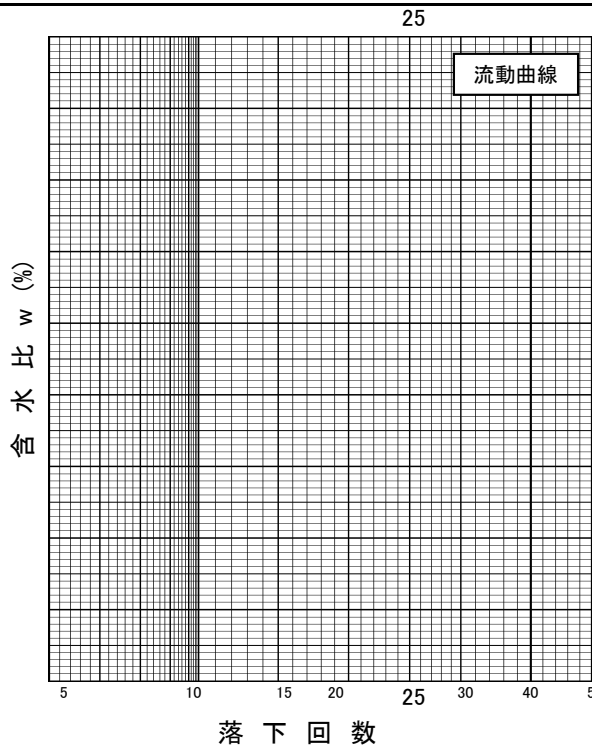
工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m <sub>a</sub> g		
	m <sub>b</sub> g		
	m <sub>c</sub> g		
	w %		
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m <sub>a</sub> g		
	m <sub>b</sub> g		
	m <sub>c</sub> g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	m <sub>a</sub> g		
	m <sub>b</sub> g		
	m <sub>c</sub> g		
	w %		
液性限界 W <sub>L</sub> %	塑性限界 W <sub>P</sub> %	塑性指数 I <sub>P</sub>	



試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m <sub>a</sub> g		
	m <sub>b</sub> g		
	m <sub>c</sub> g		
	w %		
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	m <sub>a</sub> g		
	m <sub>b</sub> g		
	m <sub>c</sub> g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	m <sub>a</sub> g		
	m <sub>b</sub> g		
	m <sub>c</sub> g		
	w %		
液性限界 W <sub>L</sub> %	塑性限界 W <sub>P</sub> %	塑性指数 I <sub>P</sub>	



特記事項 \_\_\_\_\_  $I_P = W_L - W_P$   $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$   $m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
-----	-----	-----	塑性限界 $W_p$ %
-----	-----	-----	塑性指数 $I_p$
-----	-----	-----	

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
-----	-----	-----	塑性限界 $W_p$ %
-----	-----	-----	塑性指数 $I_p$
-----	-----	-----	

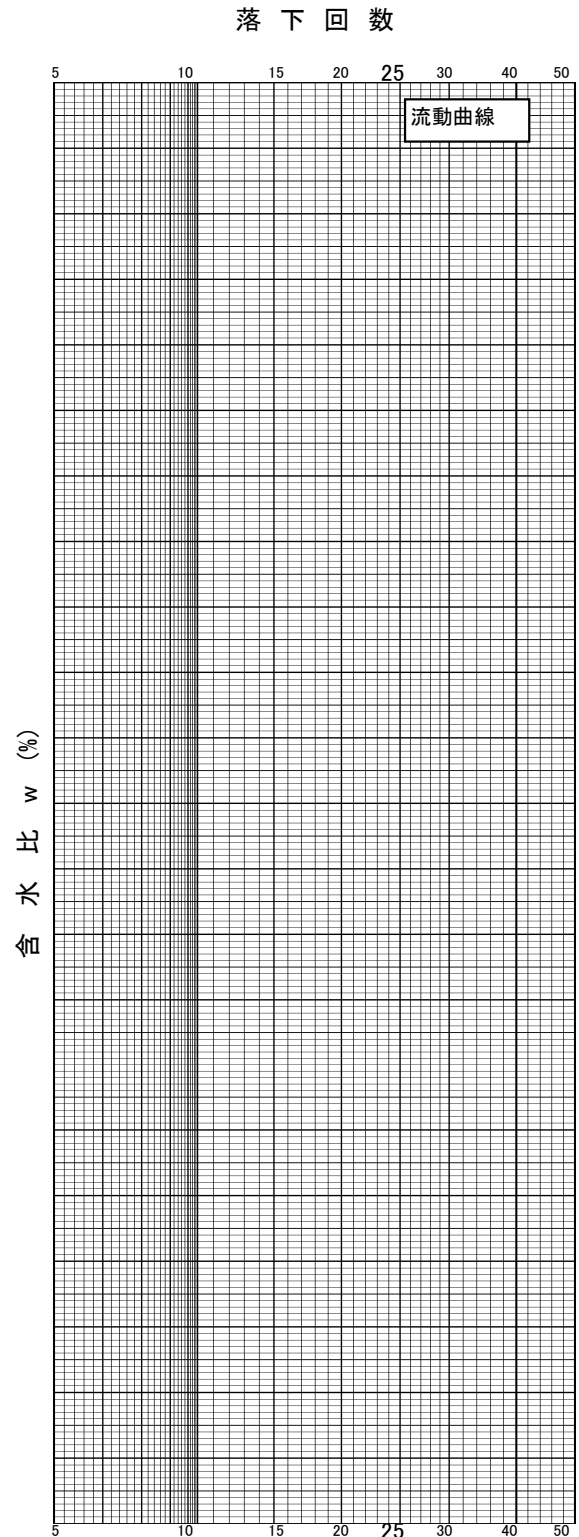
試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
-----	-----	-----	塑性限界 $W_p$ %
-----	-----	-----	塑性指数 $I_p$
-----	-----	-----	

試料番号(深さ)

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %	
-----	-----	-----	塑性限界 $W_p$ %
-----	-----	-----	塑性指数 $I_p$
-----	-----	-----	

特記事項



土粒子の密度試験（検定、測定）  
(JIS A 1202、JGS 0111)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 $m_f$ g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m'_a$ g						
$m'_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T'$ °C						
$T'$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm <sup>3</sup>						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$ g						
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C						
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>						
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
$m_s$ g						
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						
平均値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						

試料番号（深さ）						
ピクノメーター NO.						
ピクノメーターの質量 $m_f$ g						
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m'_a$ g						
$m'_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T'$ °C						
$T'$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm <sup>3</sup>						
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$ g						
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C						
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>						
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g						
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.					
	(炉乾燥試料+容器)質量 g					
	容器質量 g					
$m_s$ g						
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						
平均値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>						

特記事項

$$m_a = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T')} \times (m'_a - m_f) + m_f$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

土の粒度試験（ふるい分析）  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)			
含 水 比	容器 NO.			含 水 比	容器 NO.		
	$m_a$ g				$m_a$ g		
	$m_b$ g				$m_b$ g		
	$m_c$ g				$m_c$ g		
	w %				$w_1$ %		
平均値w %			平均値 $w_1$ %				
(全試料+容器)質量 g				(2mmふるい通過試料+容器)質量 g			
容器(NO. )質量 g				容器(NO. )質量 g			
全試料質量 m g				2mmふるい通過試料の質量 $m_1$ g			
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$ g				2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$ g			
2mmふるい残留分の水洗い後の試料	(試料+容器)質量 g			全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比	$\frac{m_{1s} - m_{0s}}{m_s}$		
	容器(NO. )質量 g						
	炉乾燥質量 $m_{0s}$ g						

2mmふるい残留分 $m_{0s}$ のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	m(d) g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_s}) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 $m_{1s}$ のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
$\mu m$		g	g	m(d) g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{0s}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

$m_a$  : (試料+容器)質量

$m_c$  : 容器質量

$m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量

土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

2mmふるい通過試料				土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>
含水比	容器 NO.			塑性指数 $I_p$
	$m_a$ g			分散装置の容器 NO.
	$m_b$ g			メスシリンダー NO.
	$m_c$ g			浮ひょう NO.
	$w_1$ %			メニスカス補正值 $C_m$
平均値 $w_1$ %			使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量	
(沈降分析用試料+容器)質量 g				
容器 (NO. ) 質量 g				全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量の比 $\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$
沈降分析用試料質量 $m_1$ g				
沈降分析用試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1 + w_1 / 100}$ g				$M = \frac{V}{m_{1s}} \cdot \frac{\rho_s}{\rho_s - \rho_w} \rho_w \times 100$

沈降分析

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
測定時間	経過時間	浮ひょうの読み		測定時の水温	有効深さ	粒径 d	補正係数	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
	t min	小数部分 r	$r + C_m$	T °C	L mm	$\sqrt{\frac{30 \eta}{g(\rho_s - \rho_w)}} \times \sqrt{\frac{L}{t}}$ mm	F	$M \times ((3) + F)$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
	1								
	2								
	5								
	15								
	30								
	60								
	240								
	1440								

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率 P	通過質量百分率 P(d)
$\mu m$		g	g	m(d) g	$\Sigma m(d)$ g	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項

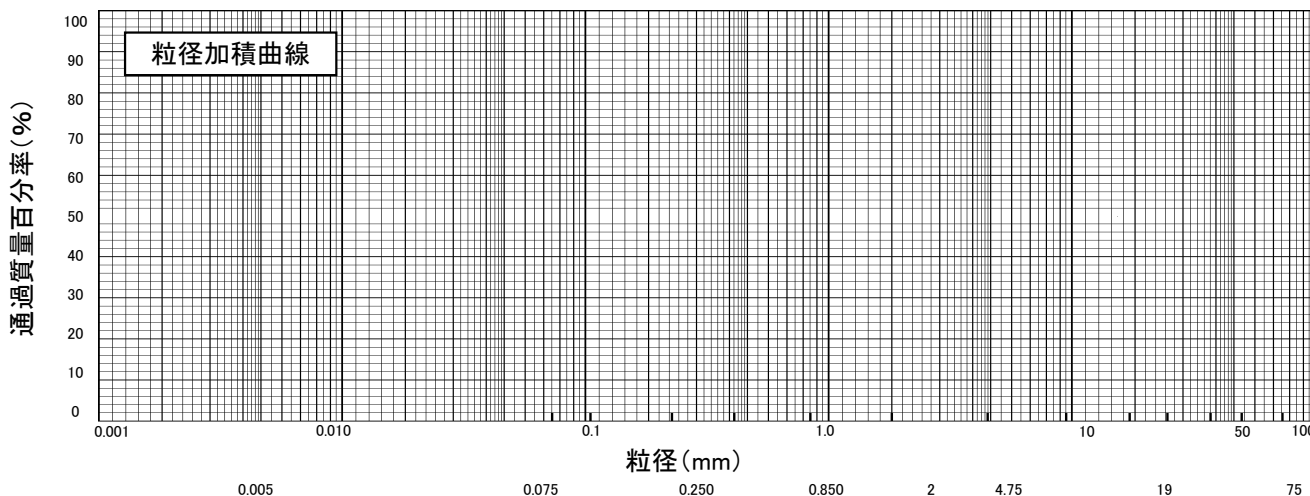
懸濁液の体積  $V = 1000 \text{ cm}^3$   
 $T^\circ\text{C}$ に対する水の密度  $\rho_w$  g/cm<sup>3</sup>  
 $T^\circ\text{C}$ に対する水の粘性係数  $\eta$  p<sub>a</sub>·s  
 $w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$   
 $m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量

土の粒度試験(粒径加積曲線)  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)			
	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%	粗礫分 %	中礫分 %	細礫分 %	
ふるい分析	75		75		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	53		53		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	37.5		37.5		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	26.5		26.5		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	19		19		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	9.5		9.5		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	4.75		4.75		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	2		2		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	0.850		0.850		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	0.425		0.425		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	0.250		0.250		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	0.106		0.106		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
	0.075		0.075		粗砂分 %	中砂分 %	細砂分 %	
沈降分析					2mmふるい通過質量百分率 %			
					425μmふるい通過質量百分率 %			
					75μmふるい通過質量百分率 %			
					最大粒径 mm			
					60%粒径 D <sub>60</sub> mm			
					50%粒径 D <sub>50</sub> mm			
					30%粒径 D <sub>30</sub> mm			
				10%粒径 D <sub>10</sub> mm				
				均等係数 U <sub>C</sub>				
				曲率係数 U <sub>C'</sub>				
				土粒子の密度 ρ <sub>s</sub> g/cm <sup>3</sup>				
				使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量				



特記事項 \_\_\_\_\_



突固めによる土の締固め試験(測定)  
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験方法		土質名称						
試料の準備方法		乾燥法、湿潤法	ランマー質量	kg		モールド	内径	cm
試料の使用方法		繰返し法、非繰返し法	落下高さ	cm			高さ <sup>1)</sup>	cm
含水比	試料分取後 $w_0$ %		突固め回数	回/層			容量 $V$	cm <sup>3</sup>
	乾燥処理後 $w_1$ %		突固め層数	層			質量 $m_1$ <sup>2)</sup>	g
測定 NO.		1	2	3	4			
(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup>		g						
湿潤密度 $\rho_t$		g/cm <sup>3</sup>						
平均含水比 $w$		%						
乾燥密度 $\rho_d$		g/cm <sup>3</sup>						
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$		g					
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$		g					
	容器質量 $m_c$		g					
$w$		%						
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$		g					
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$		g					
	容器質量 $m_c$		g					
$w$		%						
測定 NO.		5	6	7	8			
(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup>		g						
湿潤密度 $\rho_t$		g/cm <sup>3</sup>						
平均含水比 $w$		%						
乾燥密度 $\rho_d$		g/cm <sup>3</sup>						
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$		g					
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$		g					
	容器質量 $m_c$		g					
$w$		%						
含水比	容器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$		g					
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$		g					
	容器質量 $m_c$		g					
$w$		%						

特記事項

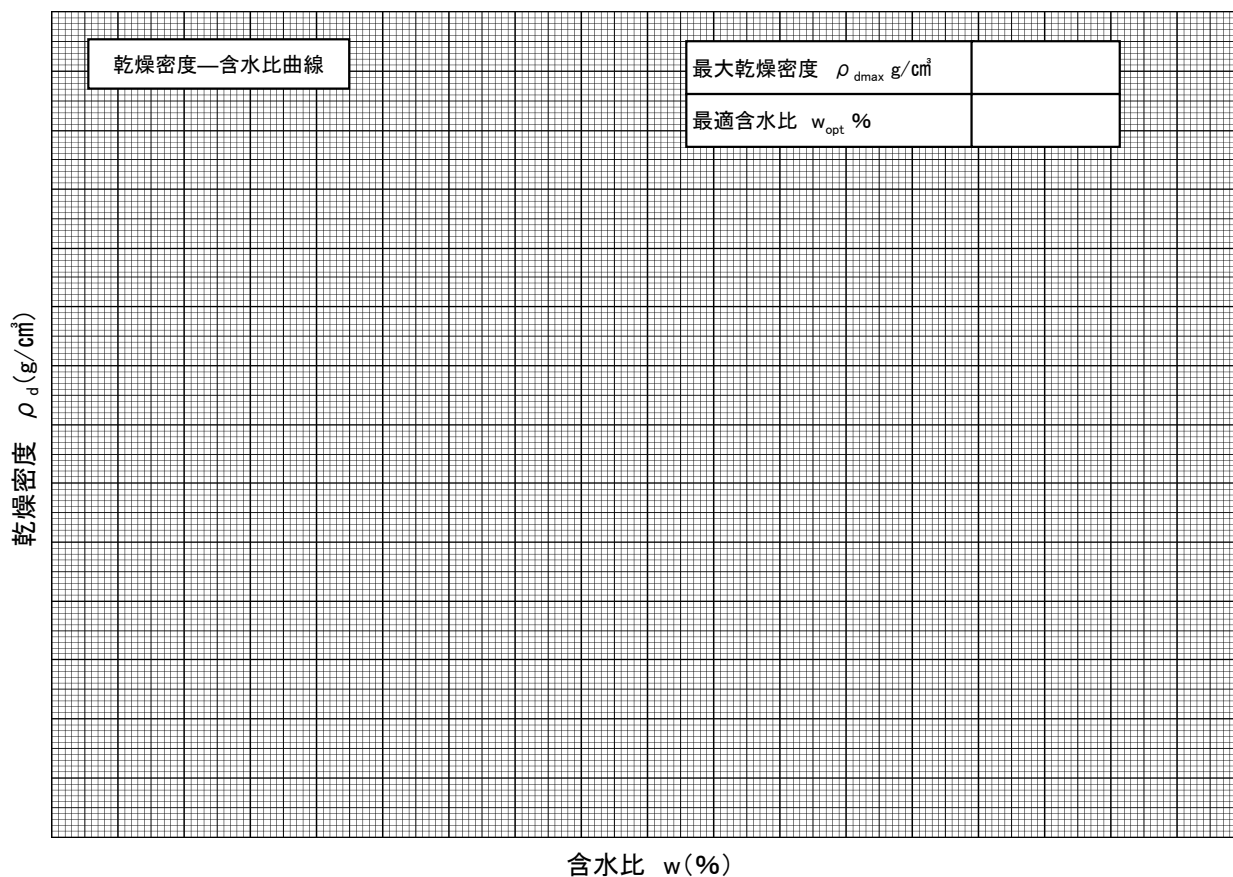
- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

突固めによる土の締固め試験(締固め特性)  
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法		土質名称							
試料の準備方法		乾燥法、湿潤法		ランマー質量 kg		土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>			
試料の使用方法		繰返し法、非繰返し法		落下高さ cm		試料調製前の最大粒径mm			
含水比	試料分取後 $w_0$ %			突固め回数 回/層		モールド <sup>d</sup>	内径 cm		
	乾燥処理後 $w_1$ %			突固め層数 層			高さ <sup>1)</sup> cm		
測定 NO.		1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 $w$ %									
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>									



特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。  
 ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w / \rho_s + w / 100}$$

(アスファルト関係)

様式 38

アスファルト試験成績一覧表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

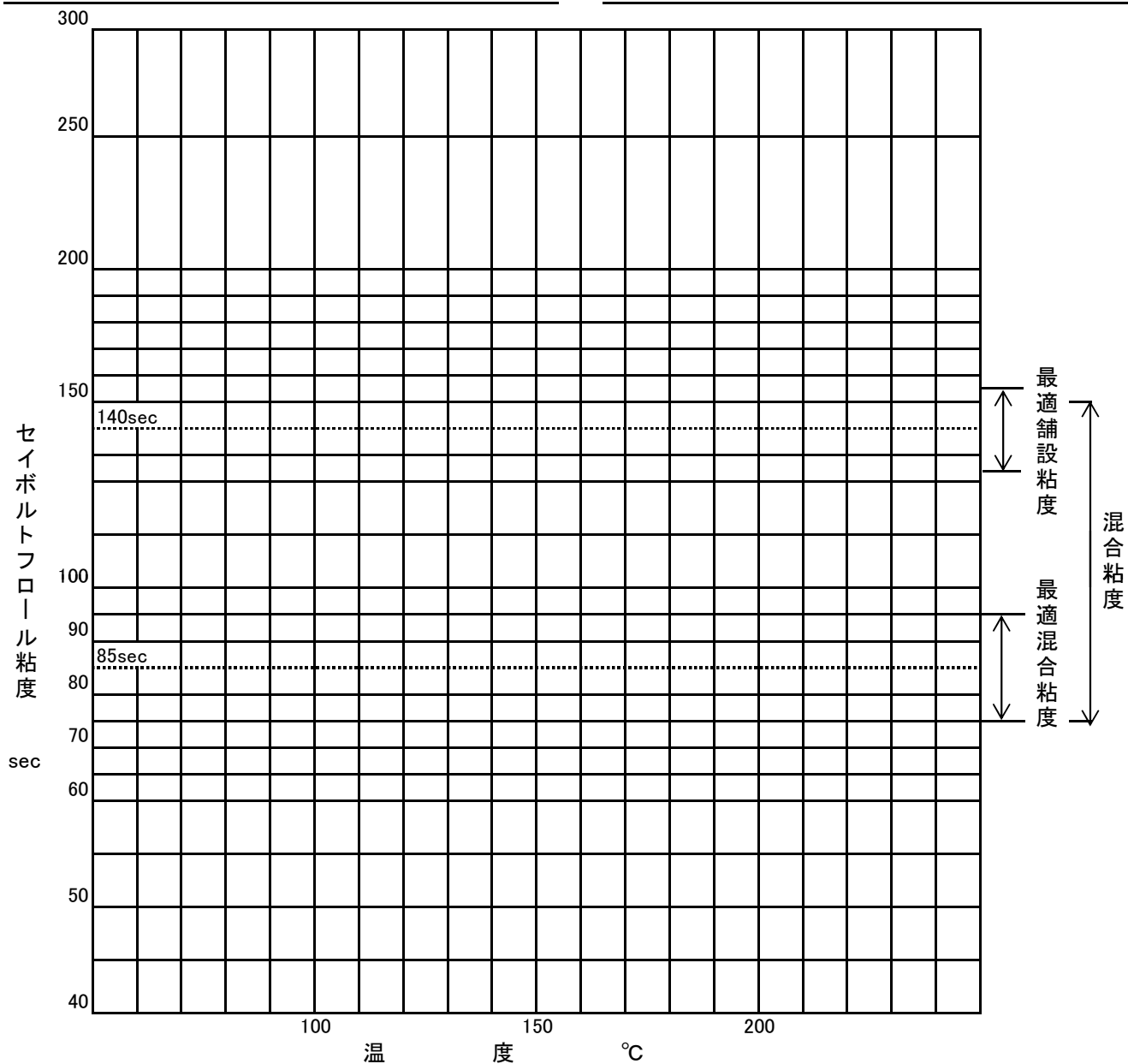
分類			
用途			
製造会社			
密度 (25°C/25°C)	規格	規格	規格
軟化点 °C	規格	規格	規格
針入度	(0°C. 200g. 60秒)	※	
	(25. 100. 5)	規格	規格
	(46. 50. 5)	※	
伸度	(25°C)cm	※	
	(15)cm	規格	規格
	(10)cm	※	
	(5)cm	※	
薄膜加熱重量変化 %	規格	規格	規格
薄膜加熱後の針入度 %	規格	規格	規格
蒸発後の針入度比 %	規格	規格	規格
三塩化エタン可溶分 %	規格	規格	規格
引火点 °C	規格	規格	規格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。  
 アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名 \_\_\_\_\_

アスファルトの粘度温度表

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_



	記号	種類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

様式 40

粗骨材試験成績一覧表（碎石）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	種	類		
粒度 (通過量 %)	53	mm			
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安定性 %					
吸水率 %					
すりへり減量 %					
洗い試験で失われる量 %					
軟石量 %					
細長、扁平(質量) %					
" (箇數) %					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					

細骨材試験成績一覧表（砂）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産地	河川名				
"	市郡町村				
生産	会社				
粒度 (通過量%)	4.75 mm				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安定性 %					
吸水率 %					
洗い試験で失われる量 %					
粒形判定実績率					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応 試験(JIS A 5308)	試験結果				
	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					
備考					

## 石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	の	種	類	
粒 度 ( 通 過 量 %) )	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安定性 ① %					
吸水率 ② %					
すりへり減量 ③ %					
0.075通過分のP. I. ④					
加熱変質 200 °C ⑤					
フロ一試験 ⑥ %					
浸水膨張 ⑦ %					
はく離試験 ⑧ %					
総試料質量 kg					
試験年月日					
<p>注 ①～③はスクリーニングスのみとする。</p> <p>④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。</p> <p>⑤は200°C ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比</p>					

骨材粒度曲線表(アスファルト)

試験日 平成 年 月 日

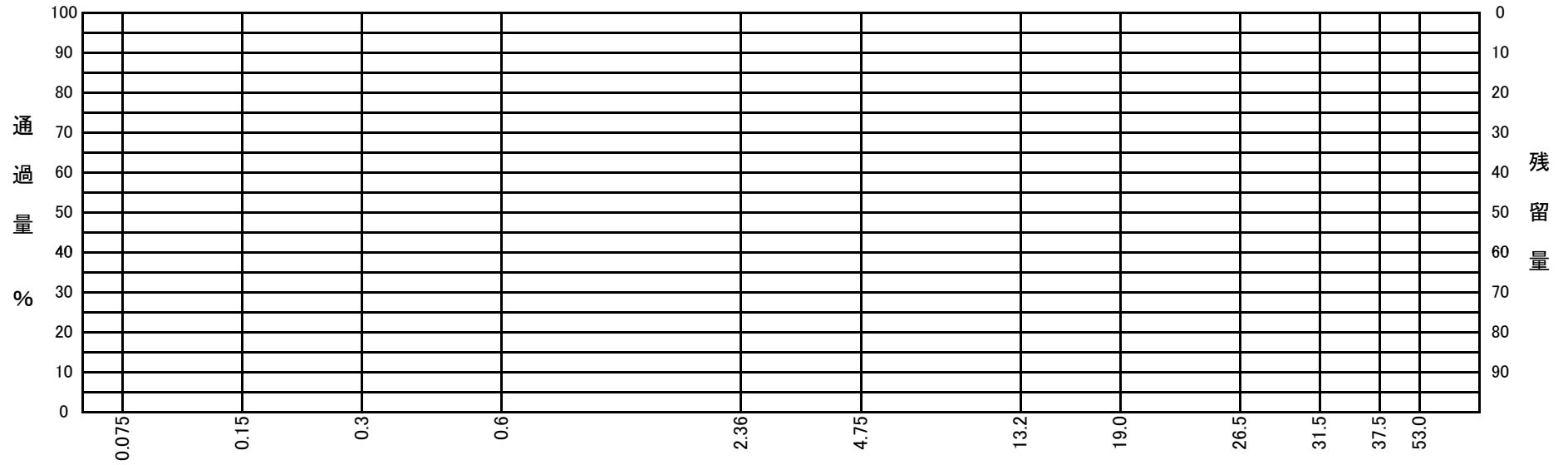
工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

印 \_\_\_\_\_



粒 径 mm

凡例	①		④		⑦	
	②		⑤		⑧	
	③		⑥		例	種類、産、用途





様式 45

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

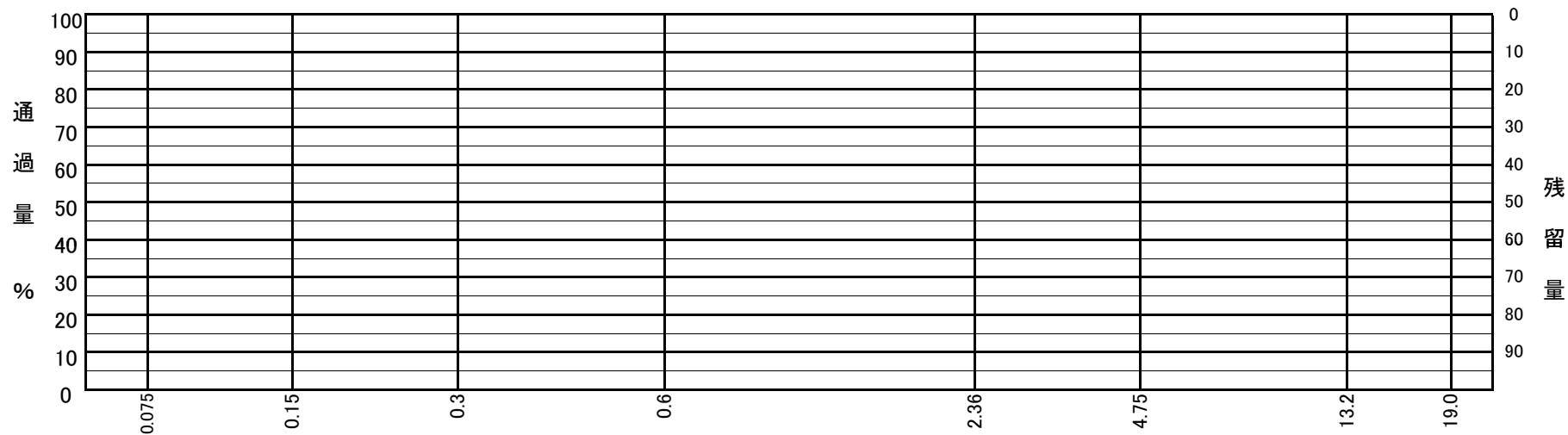
試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印



粒 径 mm

凡例	①		③		配合設計に 用いた値 範囲
	②		④		

骨材配合率の密度補正

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

							(記号) ( )	(合材種別) ( )
骨材種類							計	
配合率 a							100	
密度 b							-	
a × b							(c)	
補正配合率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$							100	

様式 47

骨材配合率及び合成粒度(室内試験)

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

(記号) (合材種別)  
( )

骨材種類													合 成 粒 度 Σ (X配合率)	指定粒度範囲
配 合 率 (比重補正)														
通 過 量	原粒度	X 配合率	原粒度	X 配合率	原粒度	X 配合率	原粒度	X 配合率	原粒度	X 配合率	原粒度	X 配合率	原粒度	X 配合率
53 mm														
37.5														
31.5														
26.5														
19														
13.2														
4.75														
2.36														
0.6														
0.3														
0.15														
0.075														

様式 48

合成粒度曲線(室内試験)

試験日 平成 年 月 日

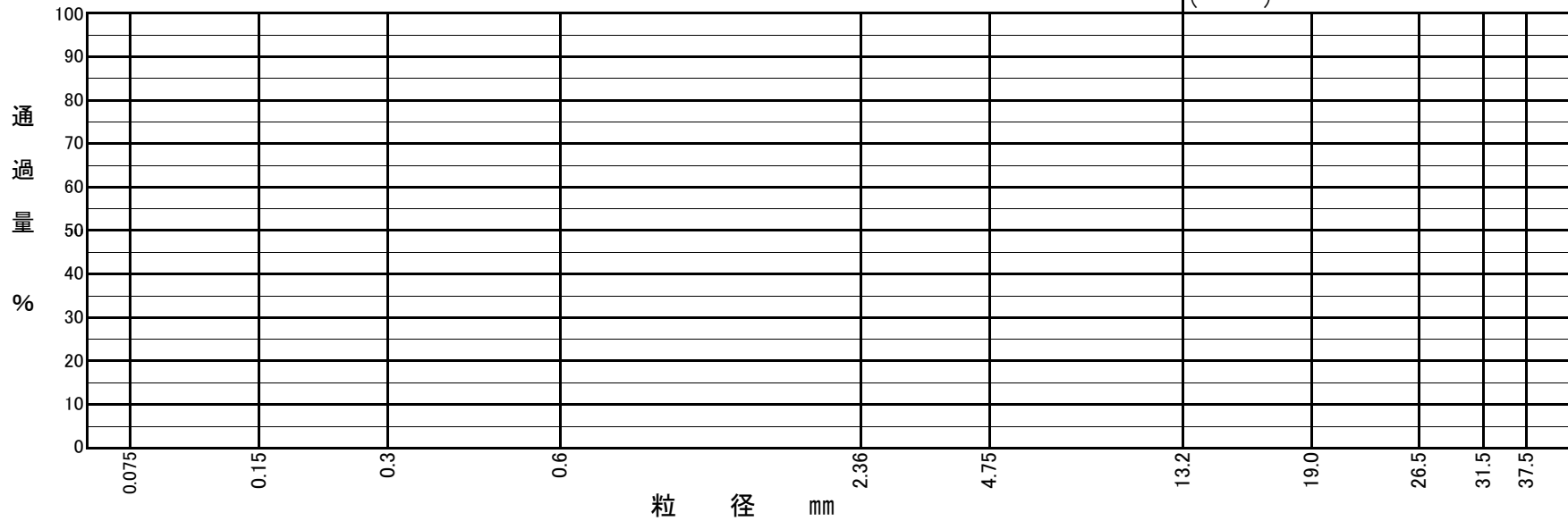
工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

(記号) (合材種別)  
( )



—————	合成粒度
-----	指定範囲

試験配合表（アスファルト量別）

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_  
 測定者 \_\_\_\_\_ 印

（アスファルト針入度 ）

合 材 種 別	記 号 ( )

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%			細骨材%		石 粉 %	%	合 計 %	摘 要
A										
B										
C										
D										
E										
F										

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

アスファルト混合物の安定度試験  
(マーシャル式・理論最大密度)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候				
試 験 日 の 状 態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)		
混 合 物 の 種 類					
理 論 最 大 密 度 の 計 算					
骨 材 の 種 類	産 地 名	① 配 合 比 (%)	②各骨材の比重	③係 数	$\frac{①}{②}$
係 数 の 和=④=					
乾 燥 骨 材 の 比 重= $\frac{100}{④}$ =					
⑤ アスファルト 混 合 率 (%)	⑥ アスファルトの 比 重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理 論 最 大 密 度 $\frac{100}{⑨}$
考 察					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					

様式 50-2

アスファルト混合物の安定度試験(マーシャル式)

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

突固め回数																		
試験の温度条件		アスファルトの加熱温度 (°C)					骨材の加熱温度 (°C)			混合温度 (°C)			締固め温度 (°C)					
マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験 結 果																		
供試体 番号	アスファルト 混合率 (%)	厚 さ (cm)					質 量 (g)			容積 (cm <sup>3</sup> )	密度(g/cm <sup>3</sup> )		アスファルト 容積率 (%)	空げき率 (%)	飽和度 (%)	安定度(kN)		フロー値 (1/100cm)
							空中	表乾	水中		実測	理論				ゲージの 読み	実測値	
①	②	③					④	④'	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
		1	2	3	4	平均				④-⑤ または ④'-⑤	④ ⑥		$\frac{② \times ⑦}{\text{アスファルトの比重}}$	$100 - \frac{⑦}{⑧}$	$\frac{⑨}{⑨+⑩}$			



様式 51

試 験 結 果 図 表

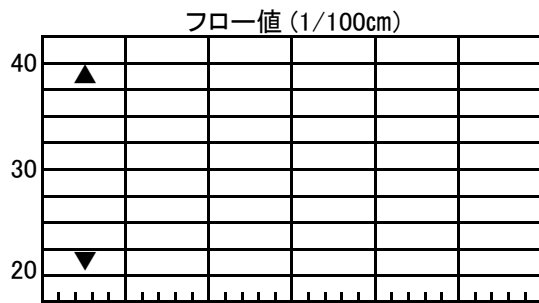
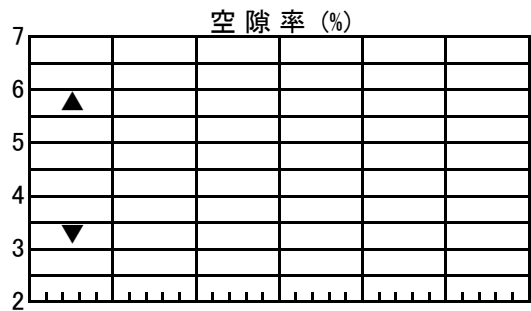
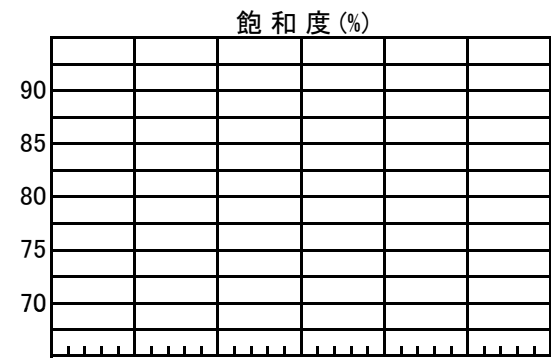
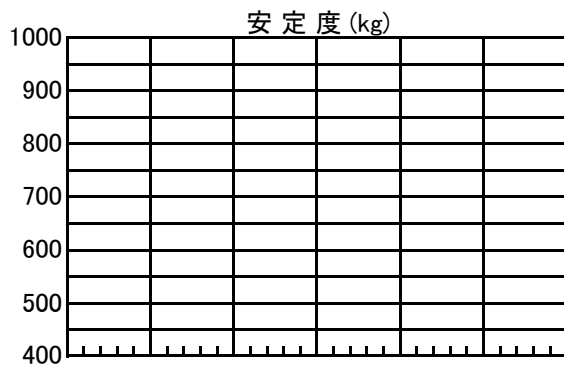
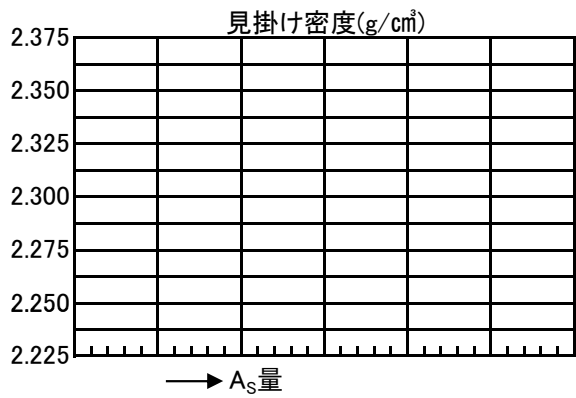
工事名 \_\_\_\_\_

受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印

(記号)	(合材種別)
( )	( )



注): 上記の基準値の線は密粒度の1例を示しているの、合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。


マーシャル試験による基準アスファルト量

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

(記号) (合材種別)  
( )

安定度									
フロ－値									
空隙率									
飽和度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許容範囲									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
〃 最小値 ②	%
$A = \left[ \frac{\text{①} + \text{②}}{2} \right]$	%

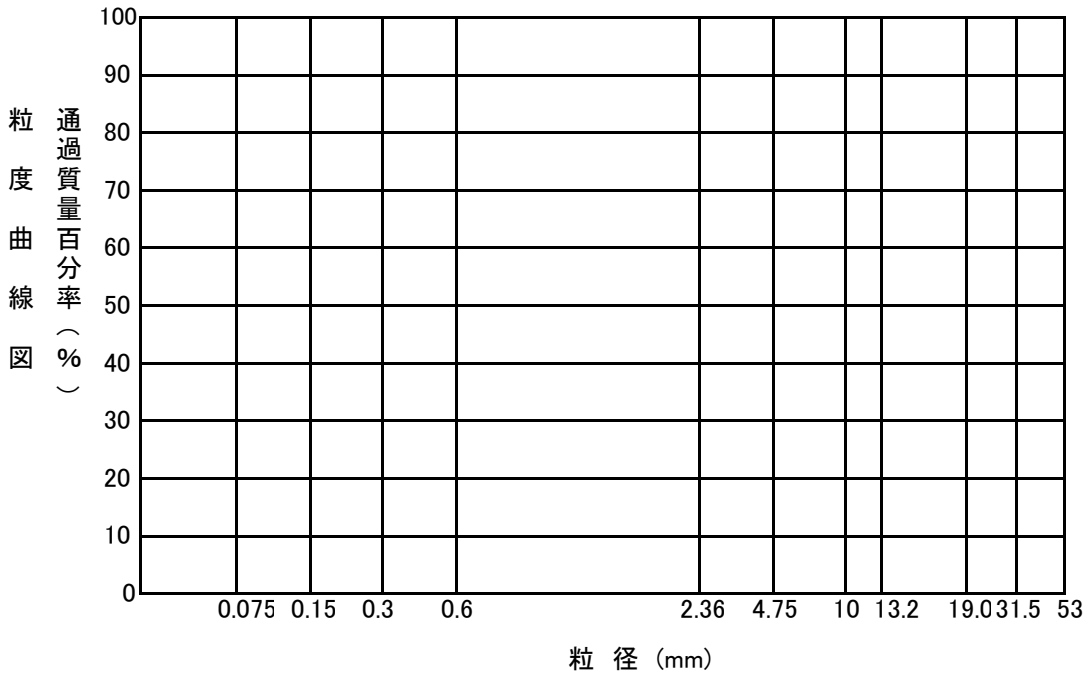
注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。  
 なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
 試料採取時刻 午後 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
 骨材の産地又は製造会社名 \_\_\_\_\_

骨材の種類 通過ふるい											合成 粒度
	53										
37.5											
31.5											
19.0											
13.2											
9.5											
4.75											
2.36											
0.6											
0.3											
0.15											
0.075											
31.5											
19.0											
13.2											
9.5											
4.75											
2.36											
0.6											
0.3											
0.15											
0.075											



様式54

粗骨材のすりへり試験  
(JIS A 1121)

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日	平成	年	月	日	曜	天候	
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)			
試験料							
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量 (g)	各群の質量百分率 (%)	粒度区分	球の数	回転数	① 試験前の試料の質量(g)
	2.5						
2.5	5						
5	10						
10	15						
15	20						
20	25						
25	40						
40	50						
50	60						
60	80						
合 計			100.0				
②試験後1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)							
③すりへり損失質量 ①-② (g)							
④すりへり減量 $\frac{③}{①} \times 100$ (%)							
考 察							

アスファルトの抽出試験

工事名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 舗装箇所 \_\_\_\_\_  
 試料番号 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_  
 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

アスファルト抽出試験結果				(焼却法)				(加圧濾過法)			
試験		採取時		試験		採取時		試験		採取時	
抽出前の試料の質量 g	①			抽出液全容積 cc	⑦			加圧前の口紙の質量 g	⑦		
抽出前の口紙の質量 g	②			焼却前の蒸発皿の質量 g	⑧			加圧後の残留物質量 g	⑧		
抽出骨材質量 g	③			焼却後の蒸発皿の質量 g	⑨			加圧後の口紙の質量 g	⑨		
抽出後の口紙の質量 g	④			石粉の質量 g	⑩			口紙付着石粉質量 g	⑩		
口紙付着石粉の質量 g	⑤	④-②		抽出液中の石粉の質量 g	⑪			抽出液中の石粉質量 g	⑪		
抽出全骨材質量 g	⑥	③+⑤		⑩=⑨-⑧ ⑪=⑩× $\frac{⑦}{100}$				⑩=⑨-⑦ ⑪=⑧+⑩			
				抽出残留物(骨材)の粒度分布							
全骨材質量 g	⑫	⑥+⑪									
アスファルト量 g	⑬	①-⑫									
アスファルト混合率 %	⑭	$\frac{⑬}{①}$									
備考											

抽出残留物のふるい分け結果

採取時 試験									
	ふるい目 (mm)	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率 %	累加残留百分率 %	累加通過百分率 %	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率 %	累加残留百分率 %	累加通過百分率 %
53									
31.5									
19.0									
13.2									
4.75									
2.36									
0.6									
0.3									
0.15									
0.075									
0.075以下									

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工 事 名		測 定 車 線	
		測定器の種類	
施 工 地 名	市 町 郡 村	測 定 年 月 日	年 月 日
受注会社名		測 定 者	印

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1+R_2+R_3+\dots+R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d <sub>2</sub> の値	
		グループの大きさ	d <sub>2</sub>
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。  
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

プルーフローリング試験

工事名 \_\_\_\_\_ 受注会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No. _____ ~No. _____				
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	
視察記事	     
異常箇所 の処置	     

(品質管理関係)

様式 58-1

$\bar{X}$  - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工 種 名 ( 名 称 )	測 定 者 印
項 目 名 ( 品 質 特 性 )	作 成 者 印

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 小 間 隔
	+	-		作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 $\Sigma X$	平 均 値 $\bar{X}$	範 圍 R			
			$X_1$	$X_2$	$X_3$						
		1									
		2									
		3									
		4						平均	$\bar{X}$	R	$\bar{R}$
		5						累計			
小計								小計			
		6									
		7									
		8									
		9						平均	$\bar{X}$	R	$\bar{R}$
		10						累計			
小計								小計			
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19						平均	$\bar{X}$	R	$\bar{R}$
		20						累計			
小計								小計			

(注)

1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 事

記入要領

1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11



## X - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工 種 名 ( 名 称 )	測 定 者 <span style="float: right;">印</span>
項 目 名 ( 品 質 特 性 )	作 成 者 <span style="float: right;">印</span>

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位
	上 限	下 限	
	+	-	

日 標 準 量	
資 料	大 き さ
	間 隔
作 業 機 械 名	

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 Σ X	平 均 値 $\bar{X}$	範 圍 R			
			X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	X <sub>3</sub>				平 均	$\bar{X}$	$\bar{R}$
小計									平均	$\bar{X}$	$\bar{R}$
									累計		
									小計		

特記

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。  
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

$\bar{X}$  - R 管理図

設計基準値		工 事 名		事業所名	
名称		日 標 準 量		期 間	自 年 月 日
品質特性		規格値限界	上限値		至 年 月 日
測定単位			下限値	受注会社名	
測定方法		試 料	大きさ	現場代理人	印
作業機械名			間隔	測定者	印

$\bar{X}$					
組 の 番 号					
記 事					

注) 1.管理図は、別紙 $\bar{X}$ -R管理データシートから記入する。  
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人		印
	下限値		間隔	測定者		印
設計基準値		作業機械名		作成者		印

月日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平 均 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 囲 Rm	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
		a	b	c	d						X	Rs	Rm	
	1													
	2													
	3													
	4									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5									累計				
	小計									小計				
	6													
	7													
	8									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計									累計				
										小計				
	9													
	10													
	11													
	12									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13									累計				
	小計									小計				
	14													
	15													
	16													
	17													
	18													
	19									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20									累計				
	小計									小計				
記 事										n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>	
										2	1.13	3.27	2.66	
										3	1.69	2.57	1.77	
										4	2.06	2.28	1.46	
										5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。  
 ----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値  $\bar{x}$  を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm 管理データシートの2

月日	試験番号	測定値計					平均値 X	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	
		a	b	c	d	Σ				
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均 $\bar{X} =$	
									$\bar{R}_s =$	
									$\bar{R}_m =$	
									累計	
									小計	
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均 $\bar{X} =$	
									$\bar{R}_s =$	
									$\bar{R}_m =$	
									累計	
									小計	
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均 $\bar{X} =$	
									$\bar{R}_s =$	
									$\bar{R}_m =$	
									累計	
									小計	
									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$	
									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$	
									平均 $\bar{X} =$	
									$\bar{R}_s =$	
									$\bar{R}_m =$	
									累計	
									小計	
記 事										
									n	
									2   1.13	
									3   1.69	
									4   2.06	
								5   2.33		

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考)                          管理限界計算のための予備データの区間を示す。  
             - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値  $\bar{x}$  を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm管理図

設計基準値		工 事 名		事業所名	
名称		日 標 準 量		期 間	自 年 月 日
品質特性		規格値限界	上限値		至 年 月 日
測定単位			下限値	受注会社名	
測定方法		試 料	大きさ	現場代理人	印
作業機械名			間隔	測定者	印

X																								
Rs																								
Rm																								
組 の 番 号																								
記 事																								

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。  
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。